

松島湾における震災で失われた アマモ場の再生活動

〒985-0002
宮城県塩竈市海岸通14-16
電話:022-362-2220
E-mail:ebisuya@c-marinet.ne.jp
<https://matsushima-amamo.jimdo.com/>



はじめる助成

1年目

実践



アマモ場の
拡大量 **10ヘクタール**

協力者の増加 **30人**

今年度計画の達成度 **75%**

活動の全体目標に対する
達成度 **75%**

課題

松島湾の沿岸市民、漁業者、観光業者、行政、研究者が一致団結して水域環境と海の生活文化の再生を目指し、アマモ場の再生活動が促進する。湾内のアマモ場が拡大する。

目標

今年度初めて、干潟づくりの砂入れ事業を実施したが、行政からの注目度も高く、今後は多くの砂を投入し、アマモの生育できる大きな干潟としたい。

活動内容と成果

アマモの花枝採取を3回、アマモの移植を2回、アマモの種子選別を2回実施した。塩釜市立第一小学校4年生に環境学習を3回実施した。引網調査によって、アマモに依存する生物の差が認められ、アマモがあることで海中生物に有

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

干潟作りには、人間の
手作業に限界があり、事
前に重機を使つての砂の
移動や、安全確保のため
に浮桟橋を設置した

■ 工夫した点

海辺の活動をするにあ
たって、安全確保が大切
であり、救命胴衣の装着、
救急箱の常備などを心掛
けた。



用であることが分かった。市民参加の海辺活動は、「アマモ花枝採取会」「親子で学ぶ松島湾の海辺」「アマモ移植会」を実施し、昨年より参加者が増加した。干潟づくりの砂入れ事業も実施したが、国、宮城県、塩竈市からの協力があり、干潟づくりに官民あげての大きな一歩となった。



今後の 展望

震災で失われたアマモ場の再生に、底質の改善や移植の株数も増やしていきたい。また、今年度の事業を出来るだけ継続し、協議会の設立に向けて各方面になお一層働きかけることが重要であると考えている。